

ENVIRONMENTAL
&
SOCIAL
R E P O R T

Coca-Cola **West**
コカ・コーラウエストグループ

環境・社会報告書
2008

OUTLINE

■CONTENTS

目次・編集方針	1
報告対象会社	2
ごあいさつ	3
コカ・コーラウエストグループと社会とのかかわり	5
2007年 活動ハイライト	7

■環境への取り組み

環境基本理念・行動指針	9
環境負荷 / 環境会計	11
温室効果ガス削減	13
循環型社会の実現	17
水資源リスク管理	20
地域環境推進活動	23

■社会への取り組み

経営理念と行動規範	25
コンプライアンス・リスク管理	26
品質保証	27
お客さまご満足	29
社員満足	31
社会貢献活動	33
自動販売機を通じた取り組み	35
社会からの評価	37

■独立第三者の審査報告書	38
--------------	----

■編集方針

「環境・社会報告書2008」は、以下の方針に基づいて編集しています。

コカ・コーラウエストグループの2007年における環境に対する取り組み、ならびに社会への取り組みについて、具体的な企業活動に即して簡潔にわかりやすく紹介しています。

【対象期間】 2007年1月1日～2007年12月31日

【参考ガイドライン】 環境省「環境報告ガイドライン2007年版」

【発行】 2008年3月(次回発行は2009年3月予定)

財務内容(連結)

2007年12月期

【売上高】	4,095億円	【総資産】	3,157億円
【経常利益】	175億円	【純資産】	2,540億円
【当期純利益】	94億円	【従業員数】	8,420人



●本報告書へのご意見・ご感想は、下記までお聞かせください。

**コカ・コーラウエストホールディングス株式会社
CSR推進グループ**

福岡市東区箱崎七丁目9番66号

【TEL】 092-641-9118 【FAX】 092-641-9128

<http://www.ccwh.co.jp/>



2008年4月1日現在

コカ・コーラウエストホールディングス株式会社

コカ・コーラウエストジャパン(CCWJ)エリアグループ

コカ・コーラウエストジャパン(株)

西日本ビブレツジ(株)

コカ・コーラウエストジャパンセールス(株)

近畿エリアグループ

近畿コカ・コーラボトリング(株)

関西ビブレツジサービス(株)

(株)ネスコ

(株)カディアック

三笠エリアグループ

三笠コカ・コーラボトリング(株)

三笠ビブレツジサービス(株)

販売機器サービス機能

コカ・コーラウエスト販売機器サービス(株)

製造機能

コカ・コーラウエストプロダクツ(株)

滋賀工場 / 京都工場 / 明石工場 / 本郷工場 / 鳥栖工場 / 基山工場

コカ・コーラウエスト大山プロダクツ(株) 大山工場

物流機能

コカ・コーラウエストロジスティクス(株)

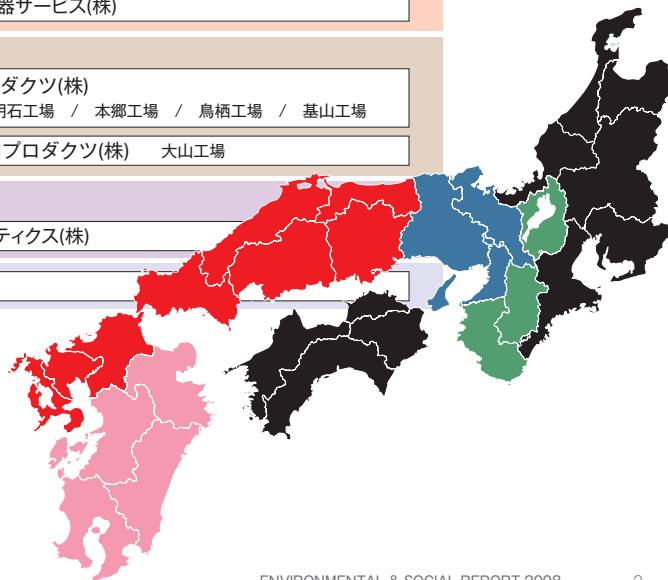
その他の関係会社(6社)

南九州コカ・コーラグループ

【報告対象会社】20社 (南九州コカ・コーラグループを除く)

コカ・コーラウエストプロダクツ(株)は、コカ・コーラウエストジャパンプロダクツ(株)と近畿コカ・コーラプロダクツ(株)が統合し、2008年1月に発足。

コカ・コーラウエスト販売機器サービス(株)は、コカ・コーラウエストジャパンカスタマーサービス(株)、関西ビブレツジサービス(株)レックステクノ事業部、三笠サービス(株)が統合し、2008年4月に発足。



TOP MESSAGE

まっすぐ、今の私たちに出来ること。

近年、企業にCSR（企業の社会的責任）が強く求められるようになってきました。

私たちコカ・コーラウエストグループが持続的成長を遂げるためには、

その基盤としての社会全体の継続的な成長がなければ成立し得ません。

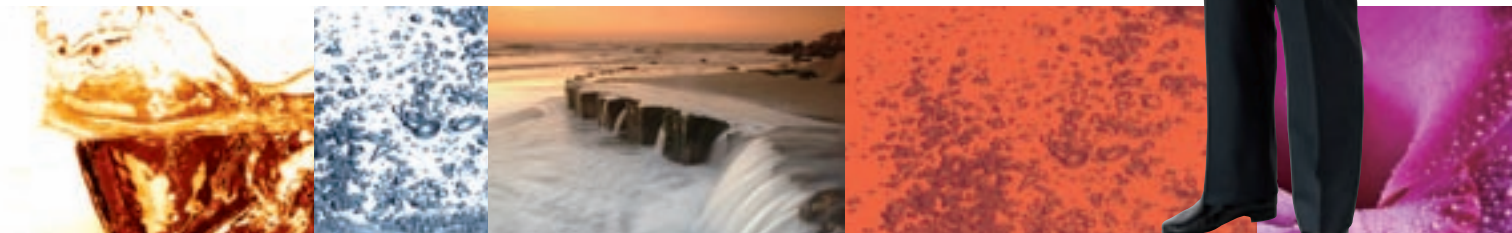
社会全体は見えざる手が健全に構築維持してくれるものと期待しては、

人類が一丸となって取り組まねばならない地球温暖化による異常気象多発の問題など、

さまざまに発生している問題の解決は困難です。

私たちも自らの襟をただし、

事業活動を通じて社会的責任を果たします。



環境面での取り組み

コカ・コーラウエストグループの経営理念では、社会や環境とのつながりを育むことが、大きな4つの柱のうちの1つとなっています。このうち環境とのつながりでは、温室効果ガス・水資源・廃棄物の3分野を重点課題として設定し、具体的活動を積極的に推進しています。

温室効果ガスについては現在、コカ・コーラウエストグループとして新たに「温室効果ガス削減計画」を策定中です。日本国内においても京都議定書約束期間に今年から入ったことでもあり、自ら定める目標の必達に向け、グループ全社員一丸となって取り組む所存です。

私たち飲料ビジネスに関わるものにとって森林は、豊かな水資源として事業を支える基盤となっています。その水源涵養林の保全を果たすべく、私たちが共同管理者として参加する「さわやか自然の森」を事業エリア全体に展開しています。社員やその家族が森林保全活動を行うことで、自然の大切さを肌で感じとる良い機会ともなっています。2006年佐賀県鳥栖市での創設に続き、2007年には鳥取県伯耆町、京都府宇治田原町、滋賀県愛荘町でも同様に開設しました。

循環型社会の実現に向けた取り組みとしては、北九州さわやかリサイクルセンターで空容器再資源化の自社処理を継続実施しています。加えて私たちの事業に深く関わっている自動販売機についても、2008年から「廃棄自動販売機の自社処理化」を実現させます。このほか、小学校へのピオトープづくり支援などをはじめとして地域社会へ積極的な貢献を果たすべく努めており、これらの継続支援を確実なものとするため「地域環境対策積立金」の設定を1999年から継続して実施しています。

社会面での取り組み

去年は、私たち同業種の食品業界に属する複数の企業による偽装問題が露呈し、消費者の皆さまの信頼を著しく損ねました。私たちコカ・コーラウエストグループではこれまでもまして品質管理体制を強化し、お客さま、お得意さまからのご意見・ご要望に応え、安全・安心とともに真心を込め、皆さまに喜んでいただける商品・サービスをお届けしてまいります。

社会とのつながりでも、小学校への一輪車贈呈などを継続して実践しており、「地域社会貢献積立金」の設定を1993年から継続して実施しています。

この環境・社会報告書では紙面の都合上、掲載できなかったさまざまなCSRの取り組みについては、弊社ホームページから情報発信しております。是非あわせてご高覧いただくとともに、皆さまから忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いに存じます。

代表取締役CEO

末吉 紀雄



さわやかな 環境づくりを目指して。

コカ・コーラウエストグループと社会とのかかわり

コカ・コーラウエストグループは

生産、輸送、販売、回収、リサイクルとつながる事業活動を通じて

さまざまな社会貢献活動や

環境保全活動に取り組んでいます。

輸送

安全意識向上を図り、
エコカー導入など燃費向上
への取り組みに努めています。

販売

お客さまに新鮮な商品を
安心してお飲みいただくこと
に特にこだわるとともに、
環境配慮型自動販売機を
積極的に導入しています。

生産

厳格な品質管理のもとで
製造しており、あわせて
温室効果ガス削減やゼロ
エミッション、水質保全へ
の取り組みを行っています。

Coca-Cola West
コカ・コーラウエストグループ

回収

飲み終えた空容器を自主回収
するほか、回収ボックス周辺
の環境美化にも努めています。

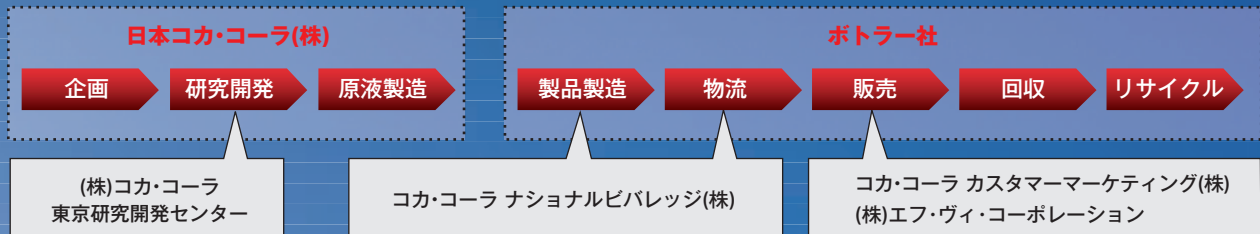
リサイクル

回収した空容器をリサイクル
施設で分別し、再資源化の
原材料として活用しています。

コカ・コーラシステムについて

日本のコカ・コーラシステムは、日本コカ・コーラ(株)と、各地域で製品の製造・販売を行う、12のボトリング会社(ボトラー社)や関連会社などで構成されています。

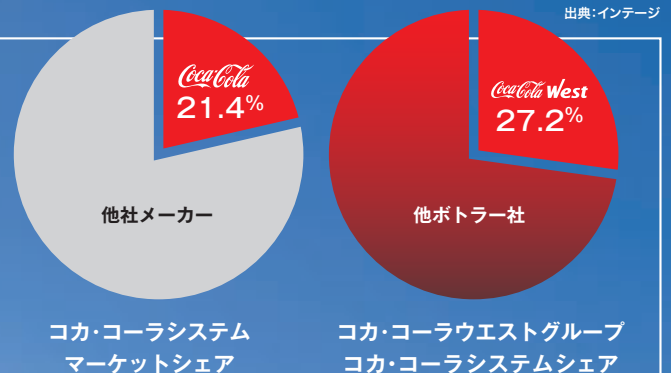
日本コカ・コーラ(株)がコカ・コーラなどの原液を製造し、調達・製造・物流を全国レベルで一元管理するコカ・コーラ ナショナルビバレッジ(株)を通じて全国のボトラー社に供給。ボトラー各社はそれぞれの工場で厳格な品質管理のもとに各種の製品を製造しています。



清涼飲料水マーケットシェア

2007年、全国の清涼飲料業界に占めるコカ・コーラシステムのシェアは21.4%でした。

また、コカ・コーラシステムにおけるコカ・コーラウエストグループのシェアは27.2%となっています。



未来にやさしい、今日を創る。

2007年 活動ハイライト



温室効果ガス削減

CCWJエリア、近畿エリアそれぞれで推進していた温室効果ガス削減計画。CCWJエリアでは、高い目標に対して実績はわずかに下回る結果になりましたが、近畿エリアでは目標を達成することができました。現在検討中の新たなコカ・コーラウエストグループ全体の計画では、社員一人ひとりの活動を反映し、実感できるような計画を策定します。

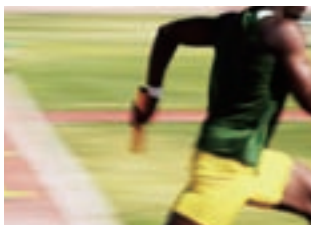
グループ全体 CO₂排出量 **43** 万 t
前年比削減率 **10** %

廃棄自動販売機リサイクル

2008年春、北九州さわやかリサイクルセンターの隣接地で、ボトラーとしては初めて、廃棄自動販売機の処理を専門的に行う自己完結型リサイクルシステムの稼動を開始します。2007年11月、北九州市若松区のエコタウンにおいて、施設の起工式を行いました。この稼動により、さらなる循環型社会の実現を目指します。



廃棄自動販売機リサイクル施設（完成予想図）



さわやか自然の森

佐賀県鳥栖市に加え、鳥取県伯耆町、京都府宇治田原町、滋賀県愛荘町の3カ所が仲間入りし、「さわやか自然の森」は4カ所となりました。その森林保全活動に参加のステークホルダーからは、森林の大切さを理解でき、環境保全意識の向上につながる良い機会になったとの声をいただきました。



さわやか自然の森に立つ看板

世界陸上

大阪市の長居陸上競技場において、2007年8月に「第11回IAAF世界陸上競技選手権」が開催されました。コカ・コーラウエストグループはオフィシャルパートナー社として、ドリンクの提供などを通じ、212カ国・3,200名の選手とスタッフ、36万人を超える観客の皆さまにさわやかさをお届けしました。



世界陸上大阪大会に協賛

ベースボールチャリティBOX

2007年10月、コカ・コーラウエストジャパン(株)はソフトバンクモバイル株式会社、NPO法人ホークスジュニアアカデミー、福岡ソフトバンクホークスマーケティング株式会社と共同で「ベースボールチャリティBOX」を設置しました。この売上金の一部はホークス球団の地元九州を中心に日本の野球の発展・普及に対する支援活動に使われます。



ベースボールチャリティ BOX

人も環境も、 さわやかに。

環境基本理念・行動指針

私たちの環境基本理念

コカ・コーラウエストグループは、
飲料ビジネスの未来を創造する企業として、
地球環境保全を最重要課題のひとつと認識し、持続可能な社会の実現に貢献します。
地域社会から信頼される企業として、
社員一人ひとりと会社が一体となった取り組みにより、
環境保全活動を継続的に推進します。

私たちの行動指針

1. 事業活動のさまざまな場面で環境に配慮し、環境リスクへの予防手段を優先します。
2. 日常業務の中で、環境負荷削減を目標とするシステムを運用し、その継続的な改善に努めます。
3. 水の有効活用、エネルギー使用の効率化、廃棄物の削減・リサイクルを推進します。
4. 適用される法規制、協定、必要に応じて設定する自主基準等を順守します。
5. 地域社会に貢献し、次世代に成果の残る活動を展開します。
6. 社員への環境教育を実施し、環境保全意識の向上に取り組みます。
7. ステークホルダーとのコミュニケーションを推進し、良き企業市民として行動します。

「環境マネジメントシステム」

現在運用中のCCWJエリアに加え、近畿コカ・コーラボトリング(株)、三笠コカ・コーラボトリング(株)では、2008年4月までに本社、同年12月までに支店などで、ISO14001認証取得を目指し取り組んでいます。また、2007年12月、コカ・コーラウエスト大山プロダクツ(株)でISO14001認証取得し、コカ・コーラウエストロジスティクス(株)では、CCWJエリアに加え、近畿エリア、三笠エリアを含め拡大認証取得しました。



ISO14001認証登録証

「環境教育」

全社員にコカ・コーラウエストグループの環境への取り組みをコンパクトにまとめた「環境ハンドブック」を配布し、環境意識の浸透、環境知識の習得に努めています。また、新入社員や新入所属長、市場開発担当者などにさまざまな環境研修を実施し、営業活動でも有効活用しています。



環境ハンドブック

「環境法規制順守」

環境法規制を逸脱し事故に直結するおそれのある管理上の問題は発見されていません。常に最新の環境法規制と照合し、漏れのないように対応を強化しています。



内部環境監査

「環境表彰制度」

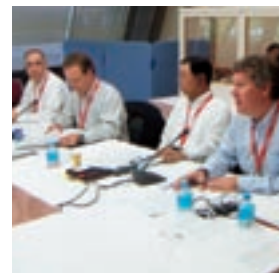
2007年、はじめてコカ・コーラウエストグループ全社を対象に環境ポスター募集を実施、グループ社員およびその家族から1,656点の応募がありました。優秀作品はカレンダーとして制作し、全事業所に掲示しています。さらに各グループの優秀作品で環境啓発ポスターを別途制作、対象事業所で年間を通じて掲示しています。



環境大賞ポスター

「CCEC会議」

CCEC会議とは、ザ コカ・コーラ カンパニーと世界6代表ボトラーで構成された環境戦略会議です。2007年9月には、コカ・コーラウエストホールディングス(株)がホストとなり温暖化対策の聖地である京都で開催しました。会議では、環境施策、環境マネジメントシステム、労働安全衛生などについて情報共有・発信を行いました。

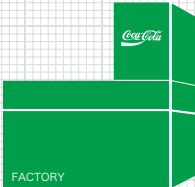


会議での活発な議論

愛する地球と ずっと一緒にいたいから。

環境負荷

生産からリサイクルまでの事業活動において、さまざまな環境への影響を把握、管理し活動につなげています。

事業活動	投入	排出	
		温室効果ガス	その他
生産 	☛ 原材料投入量 122千t ☛ 資材投入量 136千t ☛ 取水 7,590千㎡ ☛ 購入電力量 92,781千kWh ☛ 都市ガス使用量 11,692千㎡ ☛ 重油使用量 12,406kℓ	93千t-CO ₂	☛ 排水 5,840千㎡ ☛ 廃棄物 49千t ☛ SOx 141t ☛ NOx 31t
営業【車両】 	☛ ガソリン使用量 4,764kℓ ☛ 軽油使用量 15,904kℓ	55千t-CO ₂	☛ SOx 40t ☛ NOx 330t
営業【自動販売機】 オフィス 	☛ 購入電力量 自動販売機 685,038千kWh オフィス 29,713千kWh	自動販売機 274千t-CO₂ オフィス 12千t-CO₂	
回収 リサイクル 			☛ 空容器回収量 うち自社 リサイクル量 36千t 29千t ☛ 廃棄商品回収量 (フレッシュネス管理) 4千t

環境会計

コカ・コーラウエストグループでは、環境経営を効率的に遂行するため全グループを対象とした環境会計を実施しています。

活動区分		環境保全コスト【百万円】		経済効果 【百万円】	明細表 参照ページ
		投資額	費用額		
 global warming counter-measures	 地球温暖化対策	72	87	110	P16
 waste management	 廃棄物管理	1	742	314	P19
 recycle	 空容器リサイクル	113	1,233	266	P19
 water resource risk management	 水資源リスク管理	392	822	89	P20
 environmental promotion for the community	 地域環境推進活動	0	169	0	――
 environmental management	 環境マネジメント	90	201	0	――
合 計		668	3,254	779	――

あたたかい心が あたたかい地球を救います。

温室効果ガス削減

地球の未来のために、各部門の日常業務の中で
省資源・省エネルギーなどの環境負荷削減活動に取り組んでいます。

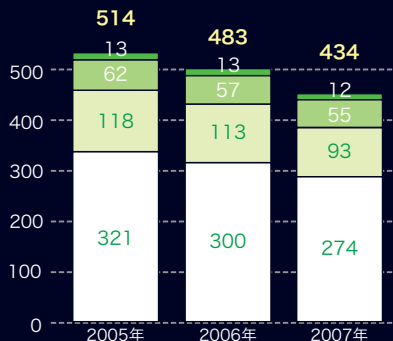
コカ・コーラウエストグループ「温室効果ガス削減計画」

環境問題の重要課題である地球温暖化対策を身近なものとしてとらえ、
「温室効果ガス削減計画」を推進しています。

これまではCCWJエリア、近畿エリアそれぞれの温室効果ガス削減計画に則り、目標達成に向け取り組んできましたが、2008年よりコカ・コーラウエストグループ全体の「温室効果ガス削減計画」を策定し、新たにグループ体となった取り組みを推進していきます。コカ・コーラウエストグループ全体の2007年温室効果ガス排出量は、前年比10%減の434千トンとなりました。

■温室効果ガス排出量

【千t-CO₂】 ■ オフィス ■ 車両 ■ 生産 ■ 自動販売機

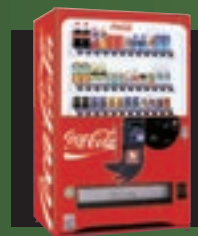


1960 1965 1970 1975 1980 1985 1990



生産部門

- ◎ コージェネレーションシステム導入
- 天然ガス化
- エネルギー監視システム導入



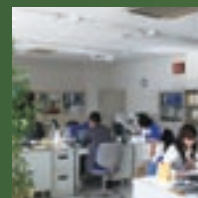
自動販売機部門

- ◎ 省エネ型自動販売機導入
- ヒートポンプ方式ノンフロン型自動販売機導入
- 定期的なメンテナンス



車両部門

- エコドライブ
- ◎ 天然ガス車・ハイブリッド車導入
- 物流拠点見直し

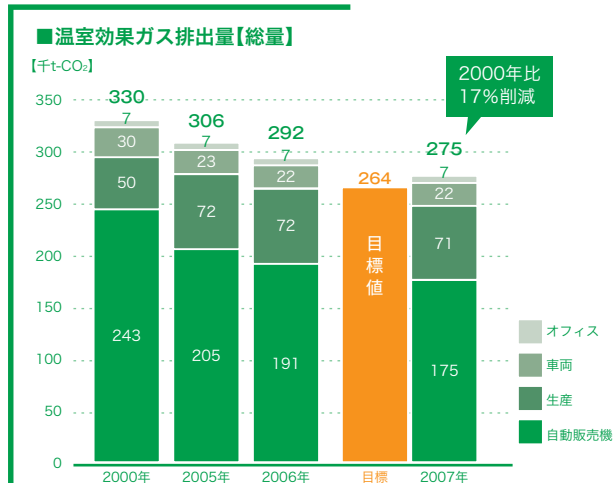
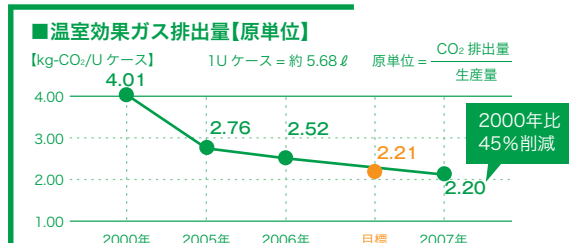


オフィス部門

- ◎ 昼休みの消灯
- クールビズ・ウォームビズ
- チームマイナス6%加入

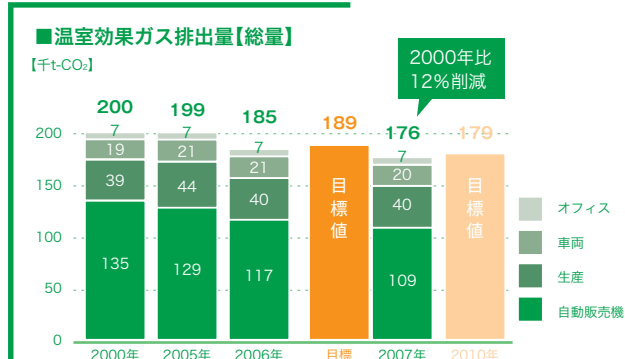
CCWJエリア 温室効果ガス削減計画

2007年までに2000年比総量20%削減、原単位同45%削減という高い目標に対して、2007年の実績は2000年比総量17%削減の275千トン、原単位同45%削減の2.20となりました。総量については目標値に11千トン未達となりましたが、原単位については目標を達成することができました。



近畿エリア 温室効果ガス削減計画

2007年の実績は2000年比総量12%削減の176千トンとなりました。2010年までに2000年比総量10%削減する当初計画に対して、順調に推移しました。



未来への一步を それぞれの取り組みで。

生産部門 / 自動販売機部門 / 車両部門 / オフィス部門

環境問題の重要課題である地球温暖化対策を身近なものとしてとらえ、各部門において日常業務の中でさまざまな取り組みを行っています。

【生産部門】取り組み状況

温室効果ガス削減につながる取り組みを、全生産拠点で積極的に展開しています。これまでに、京都工場、明石工場、鳥栖工場、基山工場で天然ガス化を終了しています。天然ガス化は、SOxを発生せず、CO₂排出量を大幅に削減するものです。また、本郷工場と鳥栖工場には、コージェネレーションシステムを導入済みです。今後とも、未導入工場への天然ガス化を積極推進するなど、温室効果ガス削減に向けた取り組みを加速します。

【コージェネレーションシステム】

ボイラーなどで発電し、発電時の排熱で温水や蒸気を作り、電気と熱を同時に供給するシステム



天然ガスコージェネレーションシステム

【自動販売機部門】取り組み状況

夏場の電力消費ピーク時に電気の使用をカットする「ピークカット機能」や冷却効率が大きいエコベンダーを積極的に導入しています。また、地球にやさしい「ノンフロン型自動販売機」への切替えを進めており、2007年には269台設置しました。

2008年からは、省エネ性能を飛躍的に向上させる「ヒートポンプ方式ノンフロン型自動販売機」を積極投入します。



ヒートポンプ方式
ノンフロン型自動販売機

【車両部門】 取り組み状況

車両の燃費向上には、発進時において燃料を消費する比率の高いことから、ふんわりアクセルeスタートを心がけ急発進を避けるとともに、経済速度、減速時の早めのアクセルオフ、アイドリングストップを徹底しています。このようなエコドライブをより確実なものとするため、大型車両135台にデジタルタコメーターを搭載、支店の配送車両には286台に「セーフティチャレンジャー」を搭載しています。さらに、エコカーの導入も積極的に推進しており、2007年には天然ガス車8台、ハイブリッド車35台を新たに導入しました。

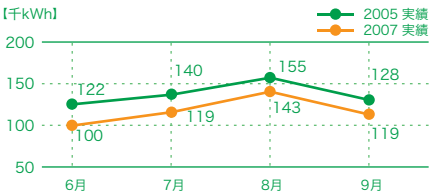


天然ガス車

【オフィス部門】 取り組み状況

空調温度を夏季28℃、冬季20℃に設定し、クールビズやウォームビズを積極的に推進しています。コカ・コーラウエストジャパン(株)の本社では夏季の消費電力が対導入前に比べ12%減となりましたが、2006年から導入したクールビズによる効果が大きく寄与したものと考えています。

■コカ・コーラウエストジャパン(株)夏季消費電力量



環境会計明細表	活 動 内 容	投資額〔百万円〕	費用額〔百万円〕	経済効果〔百万円〕	CO ₂ 削減効果〔千t-CO ₂ 〕
地球温暖化対策 global warming countermeasures	コージェネレーションシステム導入 天然ガス化	0	28	85	11
	エネルギー監視システム	0	22	0	
	省エネルギー型照明	0	7	9	
	エコカー導入	33	17	7	
	その他の活動	39	13	9	
	合計	72	87	110	

新たに生まれ変わる リサイクルへ。

循環型社会の実現

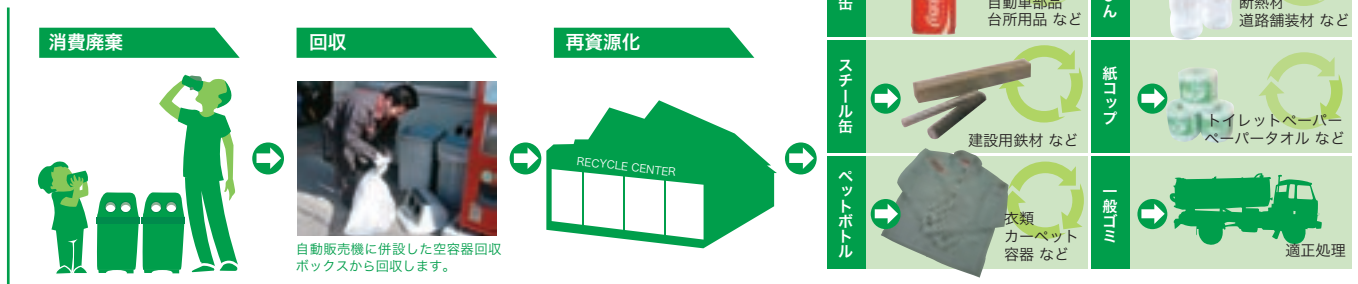
コカ・コーラウエストグループでは、限りある資源の有効活用を推進していくため、空容器・廃棄自動販売機リサイクル、廃棄物削減などさまざまな取り組みを行っています。

空容器リサイクル

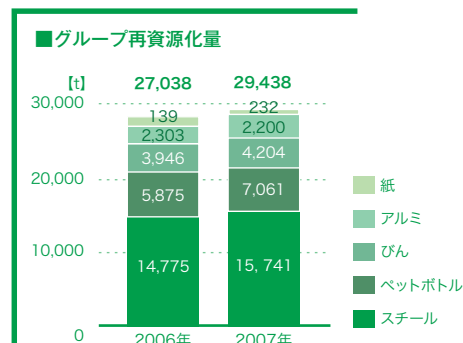
清涼飲料メーカーの責務として、自主回収した空容器の再資源化を推進しています。

空容器リサイクルの流れ

自主回収した空容器はすべて再資源化されます。



2007年、再資源化量は前年比9%増の29,438トンとなりました。紙カップリサイクル量なども増やし、ごみ分別など皆さまにご協力いただきながら、空容器リサイクルをより一層推進します。



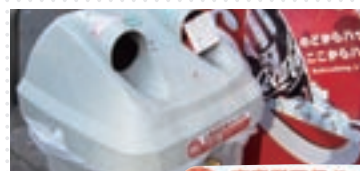
北九州さわやかリサイクルセンター

飲料メーカーで最大処理

2007年、CCWJエリアの北九州さわやかリサイクルセンターでは、8千トンを受け入れ、再資源化処理を行いました。処理量では飲料メーカーにおいて最大規模のリサイクルセンターです。

皆さまのご協力でごみ混入の解決へ お客さまへのお願い

自動販売機横の回収ボックスには、空容器のほかに弁当箱やたばこの吸殻などの一般ごみも多く混入しています。より良いリサイクルは確実な分別から。皆さまのご協力とともに推進を図っていきます。



空容器回収ボックス
ごみは入れないでください

RECYCLE

廃棄自動販売機リサイクル

廃棄自動販売機は、事前選別によりフロンガス、蛍光灯、電池などを回収した後、自動販売機本体を鉄スクラップとして製鉄メーカーでリサイクルしています。フロンガスについては確実に破壊処理しています。2008年春、北九州エコタウンでグループ内の自動販売機リサイクルを開始。空容器リサイクルに加え、循環型社会の実現に向け、自社処理化をさらに前進させます。



■廃棄自動販売機のリサイクルの流れ

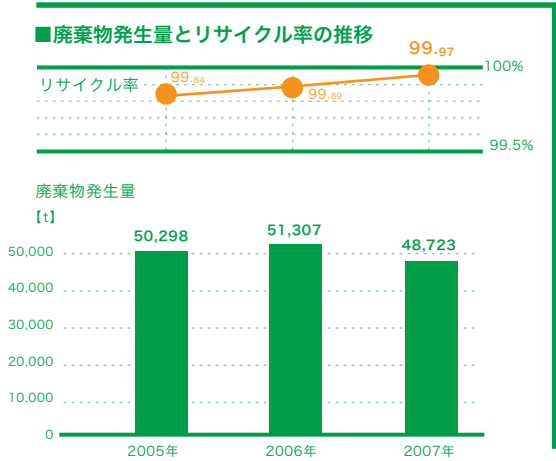


■廃棄台数とフロンガス回収量

	2006年	2007年
廃棄台数 [台]	31,455	30,915
フロンガス回収量 [kg]	6,698	6,426

工場ゼロエミッション

工場廃棄物のリサイクル率は2007年も99.9%を維持しており、ゼロエミッション(全廃棄物のリサイクル率99%以上)を達成しています。リサイクルされた廃棄物はさまざまな用途で活用されています。



■ 廃棄物発生量とリサイクル率

種 類	発生量	リサイクル率	再生利用用途
コーヒーかす 茶かす	41,199t	100%	有機肥料
汚泥	4,219t	100%	
金属類	389t	99%	再生鋼材 アルミ缶
ガラス類	395t	100%	再生カレット
廃プラスチック類	939t	99%	再生プラスチック 燃料
紙類	1,062t	99%	段ボール 再生紙
その他	520t	98%	路盤材など
合計	48,723t		

リサイクル率 **99.97%** ゼロエミッション達成

環境会計明細表	活 動 内 容	投資額[百万円]	費用額[百万円]	経済効果[百万円]
廃棄物管理 waste management	工場廃棄物処理	1	585	140
	廃棄自動販売機処理(フロン処理含む)	0	157	174
	合計	1	742	314
空容器 リサイクル recycle	リサイクルセンター運営	113	338	263
	空容器回収委託・フレッシュネス管理	0	895	3
	合計	113	1,233	266

水を有効活用 そしてきれいに自然に戻す。

水資源リスク管理

コカ・コーラウエストグループでは、清涼飲料メーカーとして水資源の循環と自然環境保護活動などに積極的に取り組んでいます。

工場の回収水利用・排水管理

工場では排水処理機能を充実し、安全な水質とした上で河川放流などを行っています。使用水は回収してさまざまな浄化処理をした後、容器の洗浄水や冷却水として再利用する水回収サイクルシステムを活用しています。工場からの排水は、高濃度廃液など水質に応じた分別管理を行い、法規制より厳しい自主基準管理を徹底しています。



温排水回収原水槽
製品加圧高温殺菌装置より排出される温水を回収し貯水する水槽
冷却塔設備
回収した温排水を冷却ファンで常温まで下げる

凝集沈殿槽
回収・冷却した水を処理して、上水道と同等の水質に処理する設備
排水処理設備
高性能排水処理浄化により、高レベルでの法規制遵守を実施

■水質測定結果

工場名	放流先	測定項目	規制値 【mg/ℓ】	実測値(最大値) 【mg/ℓ】
滋賀工場	一般河川	COD	20	17
		BOD	20	16
京都工場	一般河川	COD	25	6
	一般河川	BOD	25	6
	下水道	BOD	600	390
明石工場	一般河川	COD	20	9
	一般河川	BOD	20	6
本郷工場	一般河川	COD	50	17
	一般河川	BOD	29	6
鳥栖工場	一般河川	BOD	40	7
	下水道	BOD	600	438
基山工場	一般河川	BOD	30	11
大山工場	一般河川	COD	160	38
	一般河川	BOD	160	16

※COD:化学的要素要求量/BOD:生物化学的酸素要求量
※規制値は、放流先によって異なります。

環境会計明細表

水資源リスク管理

water resource risk management

活 動 内 容	投資額【百万円】	費用額【百万円】	経済効果【百万円】
回収水利用	1	83	89
排 水 処 理	391	739	0
合計	392	822	89

大切にしたい。 水が運んでくれる私たちの幸せ。

水資源リスク管理



家族いっしょに 地球環境保全に 参加しました。

コカ・コーラウエストジャパン(株) 倉吉支店
村岡 康晴



普段から環境問題に関心はあったものの、実際には行動に移すことができず、初めて枝打ちやしいたけ植菌の森林保全活動に参加し、改めて地球環境のことを考える良い機会となりました。家族でさわやかな汗をかき、有意義な活動でした。

コカ・コーラウエスト グループの 森林保全活動に期待します。

鳥取県西部総合事務所長
上場 重俊 様



中国地方の最高峰「大山」^{だいせん}のふもとに、スカッとさわやかな「とっとりさわやか自然の森」を開設していただきました。昨年秋には、多くの社員とその家族の方々が地元住民と協働して森林保全活動を行い、汗を流されました。今後も森林保全活動を通じて大山山麓^{だいせん}の森林や水の環境を守り、地域の発展に寄与されますよう大いに期待しております。

さわやか自然の森

コカ・コーラウエストグループは水を大量に使用する企業として、水資源保全に取り組むことを社会的責任と考えています。エリア内の佐賀県鳥栖市、鳥取県伯耆町、京都府宇治田原町、滋賀県愛荘町の森林計43haを対象に自治体と共同管理契約を締結、「さわやか自然の森」と名づけ水源涵養林の保全に取り組んでいます。5月にはCCWJエリアの新社員57名が、「とす さわやか自然の森」で針葉樹の枝打ちや遊歩道の造成を実施しました。2006年にスタートした本活動は新社員研修の一環に位置付けられ、自然の

大切さ、素晴らしさを学ぶとともに、清涼飲料メーカーとしての社会的責任を遂行することにもつながっています。その他の「さわやか自然の森」でも、ステークホルダーの皆さまやコカ・コーラウエストグループ社員とその家族によって、枝打ちや間伐作業、しいたけの植菌、その他の森林保全活動を実施しました。今後も私たちの工場が所在している拠点を中心に「さわやか自然の森」を展開し、社員の環境教育を含めた森林保全活動を推進、水資源保全に役立てていきます。



WATER RESOURCE RISK MANAGEMENT

子供たちの笑顔が 地球の幸せとつながっています。

地域環境推進活動



➡ 学校ビオトープづくり支援 ➡

自然環境の素晴らしさや大切さを学ぶことを目的とした環境教育支援。子どもたちが自ら考えた設計図をもとに、先生や保護者や地域の人たちと一緒に生き物が生息できる場所(ビオトープ)づくりを半年かけ手作りで完成させます。2007年は12校で実施、累計49校となっています。



学校植林支援 ↓

「どんぐりの森をつくろう」をキャッチフレーズに、子どもたちに苗木の里親になってもらい、自分たちの手で苗木を生育させ、山に植樹する環境教育活動です。2007年は、岡山県、広島県、福岡県の小学生約1,000名が実施しました。

コカ・コーラウエストグループでは、子どもたちへの環境教育支援のほか、環境美化、緑化などさまざまな地域環境推進活動に取り組んでいます。



コカ・コーラエコロジースクール ➡

自然環境とのふれあいを通じて、子どもたちの豊かな感性や環境保全意識を育むことを目的とした、毎年夏の恒例イベントです。2007年もエリア内5府県で実施し、合計166名が参加しました。





赤とんぼの街づくり運動

子どもたちに“自分達の住む街”の絵を描いてもらうことで、街の良さを知り、好きになってもらい、景観の保全を図っていこうという活動です。2007年は、倉敷市、長崎市で開催し、約1,000名の小学生が参加しました。



地域美化活動

コカ・コーラウエストグループでは月1回、事業所周辺の道路・公共場所の清掃活動を実施しています。また、行政と一体となって地域で開催される清掃活動にも積極的に参加し、地域社会と歩む企業として感謝の気持ちを込め、清掃活動を通じた社会貢献を行っています。

さわやか環境教室

小学校高学年を対象に、環境分野に関わる科学実験教室を行うもので、児童の科学に対する興味を引き出しつつ、環境問題を考えるきっかけを作る環境教育活動です。2007年は、山口県宇部市立黒石小学校、広島県江田島市立切串小学校、鳥取県鳥取市立倉田小学校で実施し、合計182名が参加しました。



地域環境対策積立金

コカ・コーラウエストグループでは、地域環境を積極的に保全する資金を確保するため、毎年、利益剰余金処分時に「地域環境対策積立金」として1999年より1億円、2007年からは1.5億円を計上しています。そのように積み立てられた地域環境対策積立金の用途は、「学校ビオトープづくり支援」「コカ・コーラエコロジースクール」「学校植林支援」や、21頁掲載の「さわやか自然の森」における共同管理資金などに使用しています。

開かれた扉の中で いつまでも続く未来を創造していきます。

経営理念と行動規範

経営理念を実現するために社員としての行動の基本を示すものが「コカ・コーラウエストグループ行動規範」です。この行動規範をコンプライアンス活動の中核と位置づけ、すべてのステークホルダーから信頼される企業を目指し、コンプライアンス確立のためのさまざまな取り組みを積極的に実施しています。

コカ・コーラウエストグループ経営理念

飲料ビジネスの未来を創造します

私たちは、

- お客さまに喜んでいただける商品・サービスをお届けします
- 社員一人ひとりの働きがいと生活を大切にします
- 継続的な成長により株主の信頼や期待に応えます
- 社会や環境とのつながりを育みます

経営理念

行動規範

行動規範ガイドライン

行動規範概念図

コカ・コーラウエストグループ行動規範

私たちは、すべての法令を遵守するとともに、社会的良識をもって誠実に行動し、すべてのステークホルダーからの信頼を得ることで経営理念を実現します。

お客さまに対して

私たちは、常にお客さまの立場に立って行動し、お客さまのご満足を追求します。

お得意さまに対して

私たちは、お得意さまをお客さまのご満足を実現するためのパートナーとして大切にし、お互いの繁栄を目指します。

お取引先に対して

私たちは、お取引先との公正で対等な取引を通じ、お互いの共存をはかります。

社員に対して（会社と社員・社員間）

私たちは、職場のすべての人たちがいきいきと働くことができるように、お互いの考え方や立場を尊重します。

株主に対して

私たちは、健全かつ透明性のある経営に努め、企業価値を高めます。

社会に対して

私たちは、企業市民として社会的な責任を果たし、より豊かな社会の実現に貢献します。

コンプライアンス

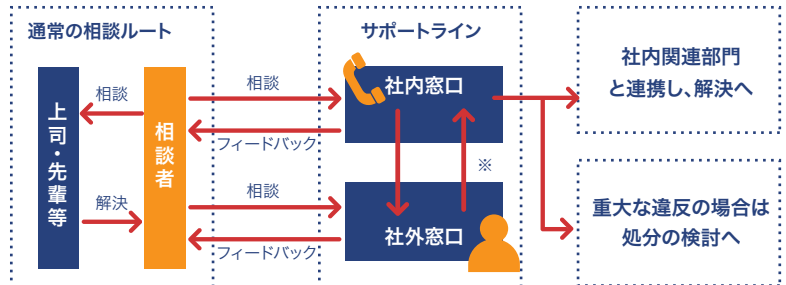
「当たり前のことを当たり前」に実践できる組織風土を醸成し、健全な会社づくりを進めるために、「コカ・コーラウエストグループコンプライアンスサポートライン」を設置し、社内担当者が努める社内窓口と外部に委託する社外窓口の2カ所の窓口体制にて運用しています。

また、社員一人ひとりのコンプライアンス意識の向上と実践に向け、教育・啓発を継続して行っています。



コンプライアンス研修

■コンプライアンスサポートラインのフロー図



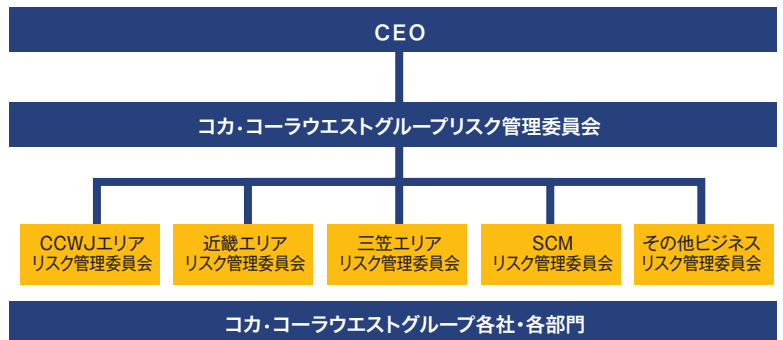
※本人の承諾なしに、氏名の開示は行いません。

リスク管理

コカ・コーラウエストグループはリスクの顕在化を未然に防止し、またリスクが顕在化し危機に転化した場合に社会および経営への影響を最小限に止める「グループ危機発生時体制」をグループ経営体制に沿って構築しています。

またグループ共通の「リスク管理規定」を制定するとともに、「リスク予防推進マネジメント」をグループ全体で導入し、潜在リスク要因に対する予防活動を展開しています。

■コカ・コーラウエストグループ危機発生時体制



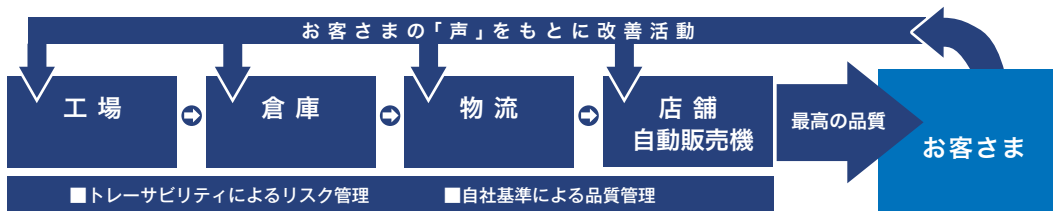
からだが微笑む 安全と安心が使命です。

品質保証

社員全員が、「品質」を最優先事項として活動し、常に安全・安心で、新鮮な商品を提供し続け、お客さまに信頼していただけるよう、こだわりと情熱を持って積極的に取り組んでいます。

最高品質への取り組み

工場からお客さまに商品をお届けするための全ての過程で、最高の品質を維持するためにさまざまな活動を展開しています。



工場

品質保証の国際規格であるISO9001の認証をいち早く取得し、厳格な品質管理のもとで製造しています。

また、コカ・コーラシステムが独自に定めた世界基準の「コカ・コーラ品質マネジメントシステム」を導入し、HACCPによる管理などを盛り込み、お客さまに安心して飲んでいただける商品づくりを行っています。

【HACCP】

1960年代に、米国で宇宙食の安全性を確保するため開発された食品衛生管理の方式

ISO9001 認証登録証



コカ・コーラ品質マネジメントシステム
認証登録証

QUALITY ASSURANCE

品質基準

工場・倉庫・物流・店舗・自動販売機に至るすべての過程において、法規制を遵守するのはもちろん、独自の厳しい品質基準を定め、高品質のものだけをお客さまにお届けするよう、社員一人ひとりが責任を持って活動しています。



鮮度管理

「お客さまに新鮮な商品を安心してお飲みいただく。」を掲げ、倉庫での滞留期間を短くし、一日でも早くお客さまの手に取っていただける鮮度管理体制づくりに尽力しています。店頭商品は販売量に応じた納品を、自動販売機においては、販売担当者が適切な庫内管理を実施しています。



管理体制

信頼される企業であり続けるために、万一のリスクに備えた管理体制も重要な要素の一つ。リスクマネジメント(危機管理)、トレーサビリティ(追跡管理)の強化を図り、リスク発生時に迅速な対応が出来る体制を整えています。



改善活動

お客さまからいただく「声」をフィードバックし、品質向上の原動力へ。

いただいた「声」から私たちの日々の活動を見直し、絶えず新しい改善に取り組んでいます。



お客さまの声が 私たちの成長につながります。

お客さまご満足

コカ・コーラウエストグループでは、グループ統一の基本方針のもと、さらなるお客さまのご満足向上に取り組んでいます。

お客さまご満足向上の取り組み

2007年3月、JISQ10002「品質マネジメント・顧客満足・組織における苦情対応のための指針」に適合したことを、自社ホームページ上で宣言。また、2007年7月には、コカ・コーラウエストグループ統一の「お客さまご満足のための基本方針および行動指針」を策定しました。グループ統一の基本方針のもと、JISQ10002のPDCAサイクルを回し、さらなるお客さまのご満足を徹底して追求してまいります。

【JISQ10002 のPDCA サイクル】

このPDCA サイクルを回すことによって、お客さまご満足と企業価値の向上を目指します。



【JISQ10002】

消費者保護を目的とした国際規格「ISO10002」に準拠する形で、2005年6月に制定された苦情対応に対する規格。第三者審査登録機関による審査登録の制度はなく、企業自身でこの規格への適合を宣言することができる。

お客さまご満足のための基本方針

私たちコカ・コーラウエストグループは、お客さまのご満足実現を、最優先すべき判断基準として位置づけ、企業活動を行ってまいります。

私たちは、お客さまの視点に立ち、お客さまの声を積極的に企業活動に活かすことで、常に「おいしさ」「便利さ」「楽しさ」「安心」を提供し続けると共に、更なるお客さまのご満足を徹底して追求します。

行動指針

- お客さまのお問合せ・ご指摘には、迅速かつ適切に誠意をもって対応します。
- お客さまに安心して飲んでいただける、安全な商品を提供します。
- お客さまの声を積極的に聞き、ニーズに合った新鮮で高品質の商品・サービスを提供し、より高いご満足が得られるよう、課題の解決、商品・サービスの改善に努めます。
- 社会に対する責任として、関係法令及び社内の自主基準を遵守いたします。

CUSTOMER SATISFACTION

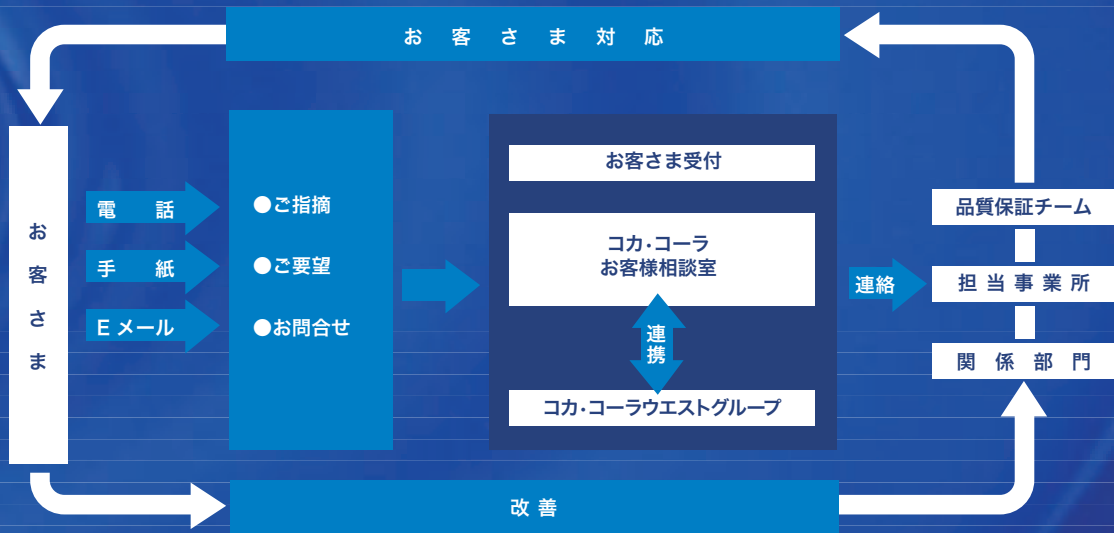
お客さま窓口の取り組み

あらゆるお客さまからのご指摘やご要望、お問合せに対し、グループ全体で迅速かつ適切に対応できる体制を構築しています。単にお客さまの声にお応えするのではなく、コミュニケーションの最良の機会として積極的な対応を心がけています。



CCWJエリアおよび近畿エリアでは、販売機器の故障受付を365日行い、休日中のトラブルにも迅速に対応しています。

■お客さま対応フロー図



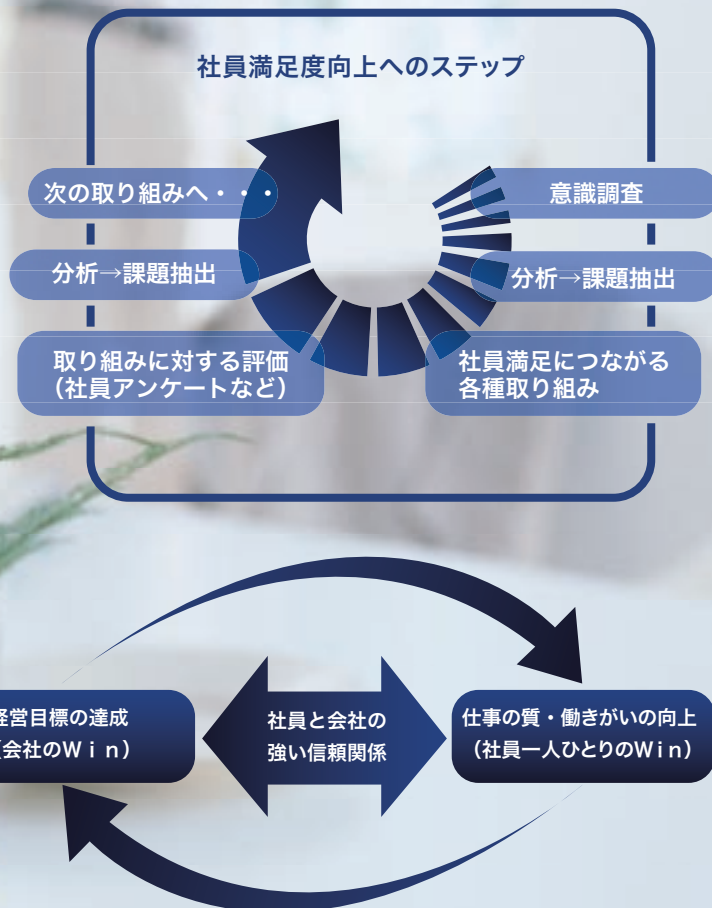
社員と家族の元気が 会社の元気。

社員満足

全ての社員がやりがいと働きがいをもって、
いきいきと働ける会社づくりを進めています。

社員満足度向上

2007年7月、コカ・コーラウエストグループ全社員を対象に
意識調査を実施しました。そして調査結果をもとに、
次につなげることを徹底して行っています。



人材育成

コカ・コーラウエストグループでは、人材育成を中期経営計画の重要なテーマととらえ、2008年1月より人材育成専任組織を新設しました。人材育成方針に沿った各種プログラムにより、「お客さまに信頼される人材」の育成を目指します。

コカ・コーラウエストグループ【人材育成方針】

●お客さま基点の社員育成プログラムの策定・実行

『お客さま基点』というグループ共有の価値観に基づき、全ての育成プログラムを設計し、実施します。

●社員の自律的成長プログラムの支援

社員は、『お客さまのために自分をどう成長させるか』を考え、実行し、会社はそのプログラムを支援します。

●On the Job-Learning による仕事の実践力向上

一人ひとりの成長計画に従い、上司は部下の、先輩は後輩の成長を支援し、仕事の質的向上を実現します。

ポジティブアクション & ワークライフバランス

コカ・コーラウエストグループでは、2007～2009年の中期経営計画において、ポジティブアクション(女性社員の活躍推進)、ワークライフバランス(仕事と私生活の両立)に取り組んでいます。2007年は、社内報にて毎号特集記事を掲載し、啓発活動に取り組むとともに、社員アンケートを実施するなど、情報収集および情報発信に注力しました。



末吉CEOと女性社員との座談会

男女関係なく どんどんチャレンジ。

活躍のフィールドに性別は関係ありません。私は、管理職になって2年が経過し、まだまだ勉強中ですが、視野の広がりと自身の成長を日々実感しています。



コカ・コーラウエストホールディングス(株)
SCMグループ 需給第一チーム 井川真里

仕事と家庭の 両立ができました。

育児休業を取得し、仕事を続けることは不安や苦労も多かったですが、周囲の理解と協力に励まされています。そんな、互いが助け合える風土づくりが重要だと思います。



コカ・コーラウエストジャパン(株)
西長崎支店 業務課 石川涼子

地域社会と築く 爽やかな絆をいつまでも。

社会貢献活動



④ 小学校への一輪車贈呈

子どもたちのバランス感覚を養い、積極的に興味を持って取り組める教材として、2007年はエリア内の小学校200校に2,000台の一輪車を贈呈しました。贈呈式のセレモニーでは、子ども達がいろいろな「技」を披露してくれました。



⑤ 特別支援学校へ教材贈呈

特別支援学校を対象とした子どもたちの社会自立の一助として、2007年はエリア内の20校に、パソコンなどの情報機器を教材として贈呈しました。学校教材の提供を通じた社会福祉支援活動で、2007年までに150校に贈呈しました。

① さわやかファミリーミュージカル

毎年夏休みに開催している子どもと保護者を対象としたミュージカル。2007年はエリア内4カ所で開催し、計5,500名を招待しました。親しみのある「プレーメンの音楽隊」を題目に、子どもたちと合唱したり、終演後には出演者とのサプライズ撮影会もあり、大いに盛り上がりました。

コカ・コーラウエストグループでは、「スポーツ活動支援」「文化・教育活動支援」「社会福祉支援」「地域イベント支援」の4つの活動を柱に、青少年の健全育成の支援や地域とのより密接なコミュニケーションを進めています。



さわやかクラシックコンサート ②

地域の皆さまをご招待し、世界トップクラス奏者による質の高い本格的なクラシック音楽を楽しんでいただいております。2007年は6カ所で開催され、アン・アキコ・マイヤースさんやウィーン八重奏団などの迫力ある演奏を堪能していただきました。



工場見学 ㊦

2005年1月にリニューアルスタートした京都工場の「マジカルエコラのファクトリーツアー」は2年7ヵ月で来場者が10万人を突破しました。また、鳥栖工場などでも工場見学を積極的に受け入れています。



㊦ ホッケースタジアム完成

2007年12月、広島市にコカ・コーラウエストレッドスパークス専用グラウンドが完成しました。国際大会・国内大会を招致でき、地元広島の高校や大学、スポーツ少年団にも提供、地域のスポーツ振興にも寄与していきます。



㊦ さわやかラグビークリニック

CCWJエリア内の小・中・高校生を対象に、ラグビー部員が講師としてラグビーの基本技術を指導しています。2007年は広島県と福岡県で開催し、360名が参加しました。



㊦ レッドスパークス後援会のお知らせ



地域社会貢献積立金

コカ・コーラウエストグループでは、地域への社会貢献を積極的に推進するため、毎年、利益剰余金処分時に「地域社会貢献積立金」として1993年より2億円、2007年から3億円を計上しています。積立金は、「小学校への一輪車贈呈」「さわやかクラシックコンサート」「さわやかラグビークリニック」などにおける資金に使用されています。

地域にうれしいこと。 そして地球にやさしいこと。

自動販売機を通じた取り組み

コカ・コーラウエストグループでは、自動販売機を通じて地域社会の発展や危機管理に貢献しています。

地域活動のサポート

支援自動販売機

支援自動販売機は、自動販売機の売上の一部を地域の社会貢献やイベント、スポーツ団体の活動資金として還元し、お客さまとともに地域活動を支援していくシステムです。CCWJエリアから始まり、現在はコカ・コーラの全ボトラー社で展開されています。2007年は、スポーツ・社会事業支援などを目的とした支援自動販売機471台を導入。これまで累計1,374台が活用されています。

■支援自動販売機の仕組み



連携による防犯推進

自動販売機犯罪通報システム

自動販売機にこじ開けなど負荷がかかると、ホストコンピュータへ異常情報を伝達、最寄りの警察署に通報するとともに犯人の動画映像も保存するシステムです。社会問題となっている“自動販売機ねらい”を抑制すべく、2007年7月、福岡県の自動販売機に「自動販売機犯罪通報システム」を導入。他の飲料・たばこメーカーとともに運用を開始しました。



災害時に飲料を無償提供

災害対応型自動販売機

災害対応型自動販売機は、大地震などでライフラインが被害を受けた場合、役所など遠隔地からのパソコン操作により清涼飲料水を無償で住民に提供できるシステムです。電光掲示板機能も搭載し、災害時の避難場所、地図情報をリアルタイムに確認できます。2007年は79台、これまで累計245台を設置し、地域の皆さまの安全・安心な暮らしに貢献します。



■災害対応型自動販売機の仕組み

災害対応型自動販売機
(滋賀県愛宕町)

これまでの歳月が もっと喜びへ。

社会からの評価

コカ・コーラウエストグループの取り組みが社会から高く評価されました。

コカ・コーラウエストロジスティクス(株)

環境省エコドライブコンテストで受賞



全国で1,127事業所が参加した、平成19年度環境省・環境再生保全機構主催エコドライブコンテストにおいて、入賞枠35事業所の中にコカ・コーラウエストロジスティクス(株)第一販売部の3事業所が入賞しました。

コカ・コーラウエストホールディングス(株)

大阪府より感謝状を拝受



2007年5月、コカ・コーラウエストグループの地域社会貢献活動および地域環境推進活動に対し、「こころの再生」府民運動を積極的に推進している大阪府より、感謝状をいただきました。

三笠コカ・コーラボトリング(株)

滋賀県と災害時の飲料提供協定を締結



2007年7月、滋賀県と三笠コカ・コーラボトリング(株)との間で、滋賀県では初となる災害対応型自動販売機での飲料無償提供と被災者への応急救助のための優先有償提供の協力に関する協定を締結しました。

独立第三者の審査報告書



コカ・コーラウエストグループの環境経営は、実直で、堅実さを追求したものであると日頃から感心しています。1993年より継続して計上されている「地域社会貢献積立金」や「地域環境対策積立金」を活用した水源涵養林保全活動や幅広い環境教育支援活動は、豊かな社会づくりの実現に寄与しています。また、現在策定中のグループ全体を対象とした「温室効果ガス削減計画」においても、社員の自発的な活動が計画達成の原動力となるよう妥協を許さない真剣な討議がなされています。

開示面では、環境・社会報告書の内容において必要最小限のことを掲載するととどめており、読者にとって理解しやすく、容易に読みこなしていただける配慮がなされています。

現在はISO14001準拠の環境マネジメントシステム構築・運用が進行中であり、コカ・コーラウエストグループ一丸となった環境経営推進に、今後ますます期待しています。

株式会社サステナビリティ会計事務所 代表取締役 福島隆史

■環境パフォーマンス指標算定基準
■環境会計指標算定基準

1. 環境パフォーマンス指標算定基準

環境パフォーマンス指標		単位	算定方法
投入	原材料投入量	千t	生産活動に伴う原液・コーヒー・ミルク類の年間投入量
	資材投入量	千t	生産活動に伴う梱包資材の年間投入量
	取水	千m ³	生産活動に伴う上水・井水・工業用水年間使用量
排出	温室効果ガス(CO ₂)排出量	燃料 千t-CO ₂	各燃料年間使用量 × CO ₂ 排出係数 各燃料のCO ₂ 排出係数 A重油 2.710t-CO ₂ /kl ガソリン 2.322t-CO ₂ /kl 軽油 2.624t-CO ₂ /kl 都市ガス 2.108t-CO ₂ /千Nm ³
		電力 千t-CO ₂	年間購入電力量 × CO ₂ 排出係数 CO ₂ 排出系数は、自らの削減努力を明瞭に表現できるよう2004年地域別CO ₂ 排出係数を全ての年の計算に使用。
			P14記載のCO ₂ 排出量削減計画におけるCO ₂ 排出量実績は、CCWJエリア、近畿エリアそれぞれの温室効果ガス削減計画策定時において使用された、各種係数ならびに集計範囲を継続して使用。
廃棄物		千t	生産活動に伴う廃棄物で、有価物含む
フレッシュネス管理などによる廃棄物		千t	フレッシュネス管理などによる市場からの製品回収に伴う廃棄物で、排水処理される量を含む
空容器回収量・リサイクル量		千t	空容器回収量は、実際の回収量から水分を除いた量 リサイクル量は、回収量から残渣を除いて再資源化された量

化学物質について、「特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律」にもとづく届出対象化学物質の取り扱いはありませんでした。

2. 環境会計指標算定基準

環境会計指標	単位	算定方法
環境保全コスト	百万円	【投資額】 ●環境保全に貢献する設備の財務会計上の投資額 【費用額】 ●環境保全に貢献する設備の財務会計上の減価償却費 ●環境保全に貢献する設備の維持運営費 ●環境保全活動に関わる人件費 ●環境保全活動に関わる諸経費 複合コストについて 原則的には差額集計とするが、差額が明瞭に判別できない場合は、按分集計、簡便集計を行う。
経済効果	百万円	環境保全活動に伴う収入額・節減額
CO ₂ 削減効果	千t-CO ₂	環境保全活動を実施しなかった場合と比較したCO ₂ 削減量であり、CCWJエリア、近畿エリアそれぞれの温室効果ガス削減計画策定時において使用された各種係数を継続して使用。

Coca-Cola West



ミックス品
FSC認証林及び管理された
森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert.no. SCS-COC-1508
© 1996 Forest Stewardship Council



PRINTED WITH
SOYINK



本報告書はFSC認証林および管理された森林からの用紙と大豆油
インキを使用しております。
また、印刷時に有害な廃液が出ない「水無し方式」で印刷されています。